



東浦町長 神谷 明彦

新年あけまして

おめでとございます。

12月6日の愛知駅伝では、東浦町チームは全ての区間を町村の部トップで走り抜き、念願の5連覇を果たしました。選手やスタッフの皆さまには感謝を申し上げるとともに敬意を表します。

昨年の大きな事業として、新学校給食センターの完成がありました。その他学校分野では、一人一人の子どもたちにできるだけ目が行き届くように学校生活支援員を増員しました。夏休みなどの補充的な授業では、教職を目指す大学生ボランティアを積極的に受け入れ、子どもたちの学習への理解をより深めるとともに、算数などに興味がある子どもにはさらに学習を発展させる機会を設けました。

ESD(持続可能な社会づくりの担い手を育む教育)でユネスコスクール最優秀賞を受賞した緒川小学校は、11月に名古屋で開かれたユネスコ世界会議の現地見学先に選ば

れ、海外から多くの方々を訪れました。

産業分野では、エスツーアイ(株)と(株)松尾製作所が新たに操業を開始しました。IT関連企業のエスツーアイは地元企業が町内で20年間操業していることを条件とした「企業再投資促進補助金」を活用して新たな業態を展開したものです。

10月には、県内の市町村で初めて、名古屋大学大学院環境学研究所と包括的な連携・協力協定を締結しました。今後、新たな施策の創出や実施後の評価について、国内屈指の知の拠点である名古屋大学の頭脳を活用できることは心強いことです。

私が就任した平成23年度当初は一般会計と特別会計で約209億円あった借金が25年度決算では約195億円にまで減りました。このような財務内容の改善がみられるのは、事業仕分けや業務改善の効果が少しずつ表れてきたものと考えています。

平成27年度の新たな事業についてはまだ予算査定段階で

すが、緒川新田地区の消防署施設と防災倉庫の設計・建設、災害時避難所になる小中学校体育館の天井落下防止、いじめ・不登校の早期発見や防止のために「こどもと親の相談員」の配置を考えています。また、介護予防施策として、検診や適度な運動など健康づくりにつながる活動をした際にポイントをためて景品と交換できる「健康マイレージ制度」、東浦自慢の特産品を町外他市町村からふるさと納税者に贈る制度を創設したいと考えています。新たな収入源確保としては、生路5号地に1.5MWのメガソーラー発電施設の設置計画が進行中です。

こぢんまりして居心地の良い中央図書館。建て替え計画はありませんが、現在の建物を活用して図書館の使い方を工夫したいと思います。昨年、図書館シンポジウムとワークショップ「よむらびカフェ」を開催し利用者の意見を集約しました。27年度は集約したアイデアに基づき、より楽し

くて親しみのある図書館をつくっていかうと考えています。地域が抱える課題やこれから訪れる超高齢化社会を乗り越えるには、顔の見える皆で支え合える地域社会の構築が欠かせません。従来、地区コミュニティでは専ら地域の親睦や交流に重点を置いた活動をしてきましたが、今後は、地域の課題を解決していく活動へのシフトが必要となります。また、行政自身をもっとオープンにして住民参加と協働を進めていく必要があります。

昨年、飛山池では数年振りにオニバスの生息が確認され、また、町内でキツネの生息も明らかになりました。大切な自然環境を守り、水と緑のある中で心豊かに過ごせる、コンパクトで景観にも優れた、持続可能なまちを皆さまとともに一歩一歩築いてまいります。

新年のご

20



東浦町議会議長
森本 康夫

新年あけまして

おめでとうございませす。

町民の皆さまには、新しい希望と輝かしい新春をお迎えることとお喜び申し上げます。

また、皆さまには日ごろから町政ならびに議会活動に対し深いご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

昨年は、幾度かの台風の襲来がありました。幸いにも本町は大きな被害を受けることもなく、まずもってうれしく思います。しかし、9月末には御嶽山の噴火、11月末にはマグニチュード6.7の長野県北部地震が発生し、改めて災害対策の必要性を再認識しているところです。長野県北部地震では、新潟県中越地震や東日本大震災での教訓を活かし、住民同士の強い結び付きと自治会組織、「災害時住民支え合いマップ」などの制度や普段のつながりがあったこそ減災につながり、奇跡的に命を落とすことがありませんでした。昨年には本町でも「防

災マップ」が各家庭に配布されました。今後も災害に強いまちづくりを推進してまいります。

さて、新しい年を迎えましたが、本町においても未だ行財政は厳しい状態が続いております。国内経済は経済政策への期待や、消費税増税延期などで景気回復に明るい兆しが見えており、株価も上昇傾向ではあります。雇用の改善や消費需要の伸びは進んでおらず、町財政も厳しい状況が続いております。

年末に、森岡から刈谷市に渡る刈谷境橋が開通し、地域の活性化が期待されています。地方公共団体においては、自主財源の確保や効率的な行財政運営がより一層求められるとともに、地方分権の進展により地方自治体が担う役割も増大し、地方行政の真価が問われてきています。

本年は、第5次東浦町総合計画で「笑顔と緑あふれるいきいき都市」の実現を目指し、重点施策中の安全安心な生活

環境づくりの防災施策として、(仮称)東浦支署西部出張所および(仮称)西部防災倉庫整備事業の用地造成から建設工事設計に着手し、有事に備えた緊急出動の時短や救援物資などの備蓄倉庫の整備が始まります。災害時に対応できる充実した体制を整え、皆さまの安心・安全を確保するため、町当局と力を合わせて災害に強いまちへの整備を進めてまいります。

また、本年は4年に一度の統一地方選挙の年で、知事選、県議選、町議選、町長選があり、住民の皆さまの審判を仰ぐ年です。そして、国勢調査の年でもあり、市制施行を踏まえた厳格な審査をしなければなりません。

住民を代表する議会といたしましても、昨今、議会の活性化が求められる中で、より身近な議会、開かれた議会の実現を目指し、議会の改革、活性化を進め、議会改革特別委員会を設置し、政治倫理条例など議会における諸問題の

解決に向けて協議しているところ。本町の現状や今後の見通しを十分認識するとともに、町民の皆さまにも的確に情報を提供してまいります。本年も町民の皆さまのより一層のご理解、ご支援をお願い申し上げます。

結びに、皆さま方のますますのご多幸とご繁栄を心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

